






















DENIME デニム一覧

BASIC SERIES			XX SERIES					ISK SERIES
15.5oz.	15.5oz.	15.5oz.	14.7oz.	14oz.	14oz.	14oz.	14oz.	13.7oz.
232	233	233	231xx-S	231XX-47	232XX-54	233xxM	233xxB	233-66
								
220A	221	224	220 ww2	220xx-47	220xx-54	224-66M	224-66B	224-66
								
								
								
								
DENIMEが創業時にリリースした「XXモデル」を再現。当時デニムを手掛けたクラボウに残っていた資料をもとに、極限まで突き詰めて再現した渾身のモデルだ。ジャケットはセカンドタイプをラインナップする	裾にかけてややテーパードがかかる1960年代に作られた紙ラベルのビッグEモデルを再現したもの。腰周りにはややゆとりがあるのも特徴だ。ジャケットは同時期に誕生したサードタイプをラインナップする	DENIMEのネームを世界に知らしめた「66モデル」を再現したもの。セルビッジデニムのエントリーモデルだが、その美しいスリムシルエットが多くのファンを魅了し、リピータが絶えない存在なのである	大戦デニムを使用したセットアップ。第二次世界大戦期だからこそ生まれた特徴的な仕様が盛り込まれている。デニムも荒々しく、唯一無二の独特の風合いが楽しめる	クラボウの最新技術でパナーデニムを徹底分析。その結果生まれた「茶綿」入りのXXデニムを使用した1947年モデル。創業当初からDENIMEが目指したモデルで、その夢の続きがここにある	デニムがファッションになった時代のヴィンテージセットアップをモチーフにしているのが、この1954年モデル。セカンドタイプのジャケットに合わせるボトムスはややゆとりとしたシルエットになっている	XXデニムが茶綿混であったことを実証してくれるナチュラルなデニム＝マザーコットンで仕上げた。タテ糸をロープ染色せずにそのままGL-3織機で織り上げており、粗野な風合いと品のある顔を両立させた	XXデニムをベースにタテ糸を中白で染めたブラックデニム。タテ落ちブラックの魅力はインディゴとは異なる風合いの濃淡にある。縫製糸を共糸にして上品な印象に仕上げているのも魅力で、DENIMEらしい	1953年に製造されたリング紡績機である「石川台」を使用し、世界初のデニム用「ラフィ」を紡績して作られたデニム。自然なムラ糸の特徴は紡績からGL-3での製織によって生地そのまま生かされている